

世界の切手に見る消防関係の切手(1)

平岩道夫(切手評論家)



写真①



写真②



写真③

日本の切手には、なかなか少ない消防関係の切手も、ちょっと海外に目を向けて見ると、いろいろなものがあるのがわかり、興味深い。

そこで本号では、“世界の切手に見る消防関係の切手”をご紹介します。

(写真1) アメリカ義勇消防隊300年を記念して、1948年10月4日に、アメリカから発行された3セント切手。中央の人物は、アメリカ最初の消防隊組織のオーガナイザー、つまり“まとめ役”として知られるピーター・スティーブサントである。

左側が1648年当時の消防車、右側が1948年当時の消防車——わかりやすくいえば、昔と今の消防車を描いた、というわけだ。

せめて日本でも、こういった図案の切手が発行されれば、もっと“消防”に関心を持つ人たちが増えることになるだろうに、チョッピリ残念……。

(写真2) この切手はイスラエルから発行されたものだが、車は明らかに“救急車”。日本と違うのは、イスラエルの国民ならだれでも知っている、三角形を2つ組み合わせた“ダビデの星”マークを救急車に付けていることだ。

一刻をあらそう“救急車”だけに、「なかなかよいアイデア」と好評の切手の1枚でもある。

(写真3) この切手の図案を、よく見ていただきたい。何に見えますか？

実は燃えるマッチを描いたユニークな切手なのです。「マッチ1本火事の元」の標語をそのまま切手にしてしまったオーストリア郵政当局にも、なかなかアイデアマンがいるものだ、ともっばらの評判。

——近況——

平岩先生「マイディアアフリカ」出版を祝う会の開催

(東京・目黒・ケニア大使館)

切手評論家であり、また動物写真家でも知られている平岩道夫氏が長女の雅代さんと共著で「マイディアアフリカ・動物写真家父娘サバンナに行く」(新峰社刊、1,300円)を出版したのを記念して、12月7日夜ケニア大使館で“出版を祝う会”がアフリカ大好き約200名を集めて催された。ケニア大使夫妻はじめタンザニア大使など東アフリカ各国のゲストが集まり盛会であった。